

第32回 旅行動向シンポジウム

コロナ禍からの再起動に向けて

9/21
11:00 ~
受付開始

2022年
10月27日(木)/28日(金)

世界各国ではワクチン接種の進展とともに段階的に各種の制限を緩和して観光活動を再開しています。日本でも3年ぶりに行動制限のない夏を迎えたほか、徐々に外国人観光客の受け入れを再開するなど、国内外で旅行市場が動きつつあります。

一方、コロナ禍で観光との関係を改めて見つめ直した地域も少なくありませんでした。コロナ禍からの再起動にあたり、観光は地域社会とどのように向き合っていけばよいのでしょうか。

1日目の市場編では、当財団が継続的に実施している独自調査の結果などをもとに「with コロナにおける世界・日本の観光のいま」を解説します。

2日目の観光地編では、コロナ禍からの再起動にあたり不可欠な観点である「地域社会と調和する観光」に焦点を当て、国内外の事例などを交えながら今後のあり方を考えます。

観光行政のご担当者、観光関連団体、観光事業者など、観光による地域振興に取り組む皆様のご参加をお待ちしております。

◆プログラム

※プログラムはやむを得ず変更となる場合もございますので、ご了承ください。

Day1
市場編

10月27日(木)
14:00 ~ 16:30

1. with コロナにおける世界・日本の観光動向
2. with コロナにおける日本人旅行者の動向・意識
3. with コロナにおけるインバウンド市場の動向・意識
4. 総括

Day2
観光地編
地域社会と調和する観光

10月28日(金)
14:00 ~ 16:30

1. サステナブルツーリズムの視点
2. ポストコロナの欧州観光事情
3. Mālama Hawai'i : マラマハワイ
～ハワイが問いかけるレスポンシブルの視点～
ハワイ州観光局 日本支局長 ミツエ・ヴァーレイ氏
4. サステナブルとレスポンシブル
～おきなわサステナラボの活動を通じて～
5. 総括

◆参加費 : 無料

◆申込方法 : 当財団 WEB サイト申込フォームよりお申し込みください。
申込受付は、9/21(水) 11:00より開始します。【締切: 10/24(月)】
<https://www.jtb.or.jp/publication-symposium/doukou2022/>



◆開催方法 : オンライン開催 (Zoom ウェビナー)
※賛助会員の皆様は、シンポジウム終了後、約1ヶ月程度にかぎり事後視聴が可能です。

主催 : 公益財団法人日本交通公社

お問い合わせ先 : 観光文化振興部 (担当: 仲・五木田)
TEL : 03-5770-8360 E-mail : jtbfsseminar@jtb.or.jp

Day1

市場編

10月27日(木) 14:00～16:30

1. with コロナにおける世界・日本の観光動向

社会・マネジメント室長／上席主任研究員 菅野 正洋

世界における観光の回復状況や諸外国における取り組み状況、日本における観光の状況や、国や地方公共団体、地域の事業者の対応状況等について解説します。

2. with コロナにおける日本人旅行者の動向・意識

企画室長／上席主任研究員 五木田 玲子

with コロナにおける日本人旅行者の国内旅行の実態及び旅行意識等について、「JTBF 旅行実態調査」「JTBF 旅行意識調査」をもとに解説します。

3. with コロナにおけるインバウンド市場の動向

活性化推進室 主任研究員 柿島 あかね

with コロナにおける外国人旅行者の海外旅行の実施状況、訪日旅行に対する意識等について、「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査」をもとに解説します。

4. 総括

理事／観光政策研究部長 山田 雄一

Day2

観光地編 地域社会と調和する観光

10月28日(金) 14:00～16:30

1. サステナブルツーリズムの視点

環境計画室長 兼 沖縄事務所長／上席主任研究員 中島 泰

サステナブルツーリズムの概念には、地球環境全体の問題から自然・文化資源の保全、あるいは地域コミュニティとの共生など幅広い内容が含まれます。サステナブルツーリズムの全体像を俯瞰的に概説し、観光地編の導入とします。

2. ポストコロナの欧州観光事情

活性化推進室長／上席主任研究員 中野 文彦

既にポストコロナに向けて動き出している欧州では、観光地としてどのような視点が戦略として重視されているのでしょうか。地域社会と観光との関係性等を中心に、最新の視察調査を報告します。

3. Mālama Hawai'i : マラマハワイ ～ハワイが問いかけるレスポンシブルの視点～

ハワイ州観光局 日本支局長 ミツエ・ヴァーレイ氏

コロナ禍以前より持続可能な観光の推進に向けた取組が進められていたハワイ。近年、「ハワイを思いやる心」という意味の「マラマハワイ」というスローガンを掲げ、伝統文化や自然環境を守るため様々な取り組みを行い、レスポンシブルな観光地としての姿勢を積極的に発信しています。ハワイが目指すコロナ後のあるべき観光地の姿について伺います。

ミツエ・ヴァーレイ氏からメッセージ

ハワイには世界の絶滅危惧種の宝庫と呼ばれるほど、貴重な生物がたくさん生息しています。この自然を守るために、知ってもらいたいことやルールがあります。これからは旅行者にも、ハワイの島々の自然や文化を守り、現地住民が大切にしている場所を敬い、美しいハワイを未来へつなげていく行動が求められます。「再生型観光」を一緒に始めませんか。



4. サステナブルとレスポンシブル ～おきなわサステナラボの活動を通じて～

環境計画室長 兼 沖縄事務所長／上席主任研究員 中島 泰

欧州とハワイの事例から見えてくる、コロナ後における地域コミュニティと調和したレスポンシブルな観光地のあり方。国内ではどのように拡がりを見せるのでしょうか。いち早く取り組みの始まっている沖縄の事例について、JTBF 沖縄事務所・おきなわサステナラボの活動から紹介し、国内における今後の展望を示します。

5. 総括

常務理事／観光地域研究部長 寺崎 竜雄